

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 1F

事業所番号	4071201133		
法人名	有限会社サライ		
事業所名	グループホームみんなの家		
所在地	福岡市西区能古324-1		
自己評価作成日	平成27年1月20日	評価結果確定日	平成27年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

海や森に恵まれた環境の中でゆったりとした生活をして頂くよう支援している。毎月イベントを行い、魚釣りや花見・そうめん流し等の自然を生かしたイベントも実施している。また、年2回バスハイクを企画し、入居者様の希望地にお連れできるように支援している。日々の生活のなかでも、本人の意志や自己決定を尊重し、思い思いに生活ができる環境づくりに努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou.pref_search.keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成27年2月4日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から十周年を迎えた「グループホームみんなの家」は環境に恵まれた能古島の初めての介護施設として島の福祉を支えている。島は姪浜港からもフェリーで10分とアクセスも良く、港からも歩いて行ける距離にある。法人では入居施設、デイサービス、グループホームを運営しており、近隣にあるデイトは共同でボランティアも受け入れ、一体的な関わりを持っている。入居者は島民以外にも環境を求めて来られ、自然に囲まれた環境でゆったりと過ごし、それぞれの人にあった生活を送り、島外への買い物に行くこともある。職員も島外からの通勤者もあり、立地的な不便さを感じず、かえって静かな環境が喜ばれている。海に囲まれ気温も安定し、島でとれたみかんや野菜などを差し入れて頂くこともある。開設から良好な関係を築き、地域との関わりも深まり、当初からは介護保険事業に対しての考えも変わってきている。事務室には職員同士で感謝の気持ちを表すスタッフボードが貼られ、お互いに感謝の気持ちを示し、円滑なコミュニケーションが図られていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を事務所や玄関に掲示し、毎月の合同会議時に全員で唱和し、意識を向上に努め実践できるようモチベーションを高めている。	「笑顔のある暮らし」が事業所の独自理念として掲げられ、理念と4つの基本方針が定められている。玄関の掲示と共に、カードサイズの物を全社員に配って周知を進めており、会議時には唱和し、日頃の実践も振り返り、毎月の個人目標と年間の施設目標に理念に基づいたものを作っている。昨年からの達成も各自で振り返り、日頃から意識づけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事に校区の自治連合会や地域の方の参加を呼び掛け交流を行っている。また地域の行事や馴染みの方の面会にてつながりが途切れないうち支援している。	敬老会、素麺流しなどに3,4回は地域の方にも案内状を発送して招待し老人会や町内会の方が参加している。毎年、地元の小中学校の職場体験も受け入れており、ボランティアが来ることも多く、昨年も申し出を受けて新たに来てもらった。町内の行事にも入居者と一緒に参加し、系列のデイサービスと一緒に行事を開くこともある。自治活動にも一緒に参加し、住民との関わりは深まっている。	行事案内などに、回覧板を使って案内を広げてみてはどうだろうか。また、地域からの相談を受け入れられるような取組や、認知症サポーター活動など情報発信も検討されることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の中学生の福祉体験に協力し、実際に施設にて疑似体験してもらい、介護技術や認知症についての理解を深めてもらえるよう実施している。また地域の認知症についての講義に参加し、地域への呼びかけも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月毎に運営推進会議を行い現状の様子や報告を行い、御家族、地域の方々、市等の意見や思いを共有し、サービスに反映できるよう最善を尽くしている。	町内会、公民館、社協、老人クラブ、交番、行政などから参加があり、家族も全員に案内して数名参加されている。入居者の参加もあり、時機に合わせたテーマを設けて、防犯に関する話や、ターミナル対応に関しての医師からの話など、関心を持てるような会議を開いている。年間でテーマも偏らないように、積極的に取り組み、地域情報ももらったり、活発に意見が交わされている。	議事録は玄関に置いて、閲覧してもらっているが、参加されなかった家族に対しても報告したり、参加につながるような働きかけを検討されてはどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各担当の方々にケアプランサービスについての質問や連絡を密にし申請についての相談等を行い、連携を図り、サービスケアの向上に努め、協力体制の強化に取り組んでいる。	新たにショートステイサービスを申請するにあたって、市との連絡を密にとり準備を進めた。生活保護課との関わりも深く、受入紹介や、身寄りのない方の対応なども日頃から連絡相談をまめにして、困難事例の受入に連携体制をとっている。運営推進会議の参加や、ケースワーカーの来訪など、協力体制が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険度が高く緊急性がある場合は御家族の同意を取り、実施した場合は早目の取り外しを担当者会議で話し合い拘束の中止の検討を行っている。	身体拘束廃止宣言を掲げ、玄関施錠も夜間のみ留める。徘徊癖のある方もいるが、駐在所や、渡船場、郵便局などにインフォメーションシートを配って、何かあった時の通報してもらえようとしており、実際に連絡を頂くこともあった。転落の危険がある方に四角柵の利用があるが、同意の上、話し合い、毎月見直しも行われている。毎年研修にも参加し、スピーチロックも含め、理解を進めている。	未然に離脱を防ぐ仕組みとして、玄関センサーや、人が少ない時の玄関管理など、安全をはかる取組が話し合われることにも期待したい。

H26自己・外部評価表(GHみんなの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設外研修に参加し報告書を作成し回覧や合同会議時に報告を行いスタッフに周知へ、情報を共有し意識を高め虐待防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、報告書を作成、回覧後に報告を行い、各職員への周知、共有化を行い意識、知識の向上に努め、支援している。	以前は成年後見制度を利用される方がいたが、現在は無い。研修参加時の伝達や、制度資料、パンフレットによって周知を進め、契約時に家族に対して説明も行っている。研修機会のあるときは参加しているが、最近ではなかった。	事業所としての制度理解を進める取り組みに期待したい。運営推進会議などで地域包括から制度に関しての出前講座などをしてもらうことなど検討されてはどうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際や解約時には本人、御家族に解り易く丁寧に説明を行い、誤認、誤解が生じないように細心の注意を払い、本人、御家族の要望を汲み取りサービスとして提供出来る様努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートの実施や運営推進会議にて意見や要望を集約し、職員会議時に報告を行い反省や改善に向け、施設運営の向上に努めている。	毎年の家族アンケートを行い、結果は集計して運営推進会議で取り上げたり、郵送して報告も行っている。食事の要望なども聞き取り、挙がった意見から運営推進会議の開催日の変更にも取り組んだ。家族を招く行事もあり、昨年は忘年会形式で行った。個別の「生活状況報告書」を毎月作成し、遠方の家族にも写真付きで報告しており、喜ばれている。	アンケートを法人から発行することなどで、匿名性を確保し、これまでに挙がってこないような意見を引き出す検討をされてはどうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回職員へアンケートを実施し、その後個人面談を行いお互いの考えや思い、要望を共有している。改善の必要性があれば、全体ミーティングにて議題として取り上げ運営の向上に反映している。	個別目標を掲げ、具体的な実践に取り組み、毎月の検証も行っている。事業所全体のミーティングが毎月有り、同日にユニットごとにカンファレンスも開いている。会議では職員から司会進行を決めて、自主運営で会議進行をするようにしている。提案から浴室の手すりの設置なども職員の発案から反映につながり、レクの企画も提案されている。管理者との面談機会もあり、日頃から話しやすい環境に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修参加の要望があればシフトを考慮している。また毎月の希望休や有給希望日を取り入れている。年2回の考課表を設け勤務状態を把握し昇給や賞与に値する配慮に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の面接時はその方のスキルや人柄に面談し採用としている。またスタッフの能力を活かせるよう、管理職が職員のサポートを行い能力を発揮できる環境づくりに努めている。	職員同士で感謝を表すサンクスボードにより、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。シフト調整もお互いに協力し、職員の男女比もバランスよく、年代も20～60歳代までと幅広い。料理や清掃など能力や特技を活かしながら、体力的な部分のサポートも配慮している。外部研修の案内や参加も可能で、法人から補助されることもある。年2回の人事考課もあり、スキルアップにも取り組まれている。	

H26自己・外部評価表(GHみんなの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対する人権を尊重する為に、施設内外の研修にて知識、意識を高め全体会議時に報告書を基に周知し、共有を行い入居者の人権を尊重する教育を行っている。	25年度には人権研修に参加し、公民館で開かれる人権学習にも年に1,2回職員が参加し、事業所での伝達も行っている。会議の中での事例検討でも入居者に対しての言葉掛けを職員同士で注意しあい話し合われた。障害に関しての学習も進めている。	実践者研修やケアマネ研修などでの人権に関するカリキュラムを内部伝達や資料回覧などで事業所に持ち帰ってはどうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの力量や状況を判断しながら研修会への参加を促している。研修の資料は全スタッフが観覧できるようファイルし情報の共有を図っている。会議時にも内部研修を兼ねた勉強会を実施し、職員のスキルアップに努めている。また代表と役職者は勉強会(社内塾)を月4回行い、スタッフを育てる為の教育を行い、外部研修後の取り組みを活かせる為に会議で取り組んで		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホームの情報交換会や部会等に参加し情報交換に努めている。同業者の来訪時はお互いの悩みや思い等を話す機会を作りサービスの向上に努めている。加後は会議時に報告し、現場職員の参加も促している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や思いに耳を傾けゆくりと時間を掛けて汲み取り、信頼関係を築いている。また安心して暮らす事が出来る様、話しやすい雰囲気や環境作りにも心掛けている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は必ずケアマネジャーとの面談を行い家族としっかり話をした上で困り事や不安、要望等に耳を傾け速やかに対応し信頼関係の構築に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は、本人、家族のおかれている状況を理解し、各担当者と支援が可能か見極め関係者、スタッフを交えてお互いに必要としている支援を可能な限り行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の生活歴や経験、情報を共有し常に尊敬の念を持ちながら一緒に生活しているという関係を築いている。また、お互いに生活する中で教えて頂くことや気遣って頂く事も多く信頼関係を深めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日常の様子を面会時や生活状況報告書を作成後郵送し、情報を共有し家族と共に支援を行っている。また施設行事には家族の参加を促し常に家族との交流の場が持てるよう努めている。		

H26自己・外部評価表(GHみんなの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族(親族)が行事等に参加できるよう案内状を送付し面会に配慮している。また里帰りの際はスタッフが家族まで付き添いを支援し交流の場を大切に行っている。地域行事の参加にも付き添い、施設行事には地域の方、学生等を招待し社会的交流の場となるよう支援している。	島外への一時帰宅や、墓参りにために姪浜港まで送る支援をしたり、以前は県外まで個別ケアによって付き添ったこともあった。行事も家族に案内して来訪を呼びかけ、系列の通所の利用者とも顔なじみの方が、お互いに行き来することもある。身寄りのない方にも馴染みのある場所に連れていったり、本人の要望を聞いて支援している。習い事や趣味の延長で、三味線をしたり、菜園の世話をする方などもいた。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が生活の中で保有能力を活かしながら洗濯物たみ、着衣のお手伝い、居室の掃除等を行い、お互いが支え合う場面がみられている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所のサービスを受けられる際には当施設でのアセスメント、ケアプランの情報提供を行い、今後のサービスがスムーズに実施されるよう連携を図っている。また本人、家族が気軽に相談できる体制に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議を開催し、本人、家族の意向を確認後、介護計画に反映している。本人の意向確認が困難な場合には周囲の関係者への聞き取り状況や様子をみながらセンタードケアとなるよう配慮している	入居時のアセスメントにはセンター方式の一部を活用し、フェイスシートにも新しい情報がある際には追記している。基本的にはケアマネージャーと担当者が受け持ち、聞き取りには関係者や家族にも情報を記入してもらい、全職員のカンファレンスによって情報を共有している。認知症の重い方には、過去の生活歴から読み取って意欲を刺激するような働きかけを心掛けている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には本人、家族、ケアマネージャー、各関係者より介護計画書、サマリー等の資料をして頂き、聞き取りによる情報収集も併せて行い全職員で情報を共有する事サービス利用に繋げている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの持つ保有能力(洗濯たみ、野菜の皮剥き、お盆拭き)に目を向け格差や特徴に配慮しながら一日の過ごし方を支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は月一回の担当者会議を実施し、お互いの意見やアイデアを持ち寄り、介護計画作成の基礎としている。必要に応じて本人、家族、担当者で話し合い、より良いケアとなるよう介護計画を作成している。	職員は担当制で、状況報告やカンファレンスでの意見提案、記録の管理などを受け持っている。3ヶ月毎のモニタリングや、毎日プラン目標ごとの実施チェックを行い、月の評価は担当者が行っている。毎月のカンファレンスで全職員が入居者の情報を共有している。更新時には家族にも参加してもらって担当者会議を開き、医師や看護師からの意見は介護日記に記録している。	医師や看護師の意見も取り入れているが、担当者会議の議事録や照会記録に残すことで、他職種からの意見をプランに反映させる取り組みにつなげてはどうか。

H26自己・外部評価表(GHみんなの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン実施表、生活状況報告書、介護日誌、バイタル表、食事摂取表等個別に作成記入し、様子の変化等を職員間で共通認識し実践と介護計画の見直しに活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の日々変化する状況に流動的に対応できるよう体制を整えている。職員間の報告、連絡、相談を密にし情報の共有化を行いサービスの多機能化に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設職員が地元消防団に所属し消防団や地域の方に協力して頂き避難訓練を行っている。校区の中学生の福祉体験学習の場として協力し交流する事でお互いの心身への良い影響となるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族がかかりつけ医と面談され納得して受診できるようサポートしている。医療面での変化がみられた際は早急にかかりつけ医に連絡を取り迅速な対応を行い本人家族が安心して適切な医療が受けられるよう支援している。	元々のかかりつけ医を継続し、提携医の場合は往診が月に2度あり、居宅療養管理指導を受けている。定形外病院への受診は基本的には家族にってもらうが、事業所からの介助や同行を行うこともある。電話によって情報は随時共有し、系列通所介護の看護師が毎週勤務することで健康管理もされている。毎月の状況報告書の中で医療情報を家族に伝達もしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入居者の変化を常に観察し医療的、心理的特変がみられる場合には施設看護師、かかりつけ医看護師に報告し適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際、医療機関と互いに情報を共有し本人にとって適切な治療を受けられるよう支援している。また早急に退院出来るよう医療関係者、家族への協力が得られるよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に「利用に際しての事前指定書」で看取り、治療についての意向、要望を確認し同意をとっている。また、家族会や運営推進会議でテーマとして取り上げ本人、家族、地域の方等で話し合い看取りケアについての知識を深め合っている。医師と家族との架け橋となる支援にも努めている。	以前から希望があれば、支援していたが、ここ2,3年で指針を明文化して、同意書も取り交わし、看取りプランも作成するようになった。最近でも希望があり、医師や関係者と協力して最期まで支援した。運営推進会議にも医師に参加してもらい、勉強会も開き、外部研修にも参加した。職員も経験を積んで対応出来るようになっており、提携医も24時間、緊急時対応を協力している。	

H26自己・外部評価表(GHみんなの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故の対応についてマニュアルを作成している。避難訓練時にAEDキットを使用し緊急対策に、全職員が実践できるよう努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時と災害対策を兼ね校区の消防団、職員の消防団で実施し全職員が的確に対応できるよう取り組んでいる。	地域と協力した消防訓練を行い、大々的に取り組み、参加している。事業所独自の訓練も年2,3回あり、消防署、消防団の参加もされている。系列デイサービスとも協力体制を作り緊急時協力や連絡体制も整備している。年1回程度は運営推進会議と同日に計画することもある。夜間想定を主体にし、備蓄物やAED、救命訓練もなされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを損ねないように人格を尊重するような言葉掛けや対応を行い、環境作りに努めている。	排泄介助時などプライバシーに配慮し、居室の戸も普段から閉めて見えないようにしており、日頃の言葉かけや対応も本人に失礼のないように、気をつけている。男性職員も多いが同性介助の要望を聞いて対応も行う。徘徊SOSのインフォメーションシートなど写真利用も含めて事前に書面で同意を得ており、調査時も挨拶や対応を快く元気になされていた。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の選択や外出、買物等、個々の思いや要望を日々の生活の中から汲み取り、自分の意志で決定できるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調やペースを汲み取りそれに合わせた生活が出来るよう支援している。就床や起床、入浴、休息等はなるべく本人の希望に沿って支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隔月に訪問美容の依頼を行い、更衣については本人の好みを尊重し個性を大切に支援を行っている。外出、行事の際は日常と異なる服を準備し、化粧などの支援も行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の身体能力に応じて、調理補助を依頼し、一緒に準備や後片付けを行っている。また、季節行事では入居者様の好みも聞き入れ食事を提供している。	メニューや食材は業者による配達があるが、差し入れや菜園の収穫物も使って柔軟にアレンジも加えながら職員が調理している。調査時も下ごしらえの準備を入居者が手伝っていた。職員も同じ時間に同じものを一緒に食べており、会話とともに食事を楽しんでいた。アンケートで好物を聞いて、メニューにも反映させており、品数も多くバラエティに富んだ物が提供されている。	

H26自己・外部評価表(GHみんなの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスにて栄養士が栄養バランスを考えた献立に沿って調理を行い、それぞれ入居者の状況に合わせた形態や摂取量、水分量に配慮しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の口腔ケアの状況を把握し保有能力を活かせるよう支援を行っている。定期的な受診が必要な方は、訪問歯科や受診にお連れし清潔保持のケアを行っています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをすることで入居者様の排泄パターンや習慣を把握し、トイレで排泄して頂く支援を行っています。夜間時も必要な方はポータブルトイレを設置する事で安心して排泄できるよう支援している。オムツ類の負担軽減の為、カバーパンツやホルダーパンツの使用も考慮している。	ユニット毎の排泄チェックシートがあり、毎日記録し、全員の排泄リズムを共有している。夜間もトイレなどで自力排泄出来るように支援しており、トイレの場所の理解が乏しい方も、様子を観察することで、前もって働きかけて失敗のないよう排泄してもらっている。何かある時もカンファレンスで話し合って対応を検討し、積極的にリハパンや布下着への改善提案もしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつ時に食物繊維や乳製品を多く取って頂き、体操や散歩を心掛けることで便秘の予防につながっている。排便困難である入居者は医師への相談をふまえ緩下剤を使用、調整し個々にあった支援を行っている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はできるだけ入居者の希望にて、時間帯、順番等タイミングを合わせ支援している。入浴への拒みの強い方については、様子をみながらスタッフ交代し、配慮しながら不安なく入浴して頂けるよう支援している。	1Fは2人で入れるほどの、大きめの24時間循環風呂で、2Fは家庭用サイズの浴室となっており、昨年には手すりを使いやすい位置に付け替えている。基本は午前で週3,4回の入浴で、希望すれば毎日でも対応している。拒まれた際は時間を変えたり、仲の良い方同士で入ってもらうこともある。皮膚観察を兼ねて看護師が介助することもあり、リラックスしてコミュニケーションの機会としても役立てている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の状況を各自把握することで、午睡やレク、散歩等に誘い、入居者の体調管理に配慮安心して休息できる環境づくりに努めている。安眠して頂くよう、照明や室温の調整も行い支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の詳細が職員に分かりやすいように、各個人の介護記録表や服薬表に処方説明書を貼り付け確認できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の季節行事、誕生日会、バスハイクの企画にて、職員、入居者の方々との交流を深め楽しみを共感している。その他に生活習慣を維持して頂けるよう洗濯物たたみや野菜の皮剥き、食器洗い等で出来る事での役割をもてるよう支援している		

H26自己・外部評価表(GHみんなの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があれば、日程を決め、シフトの調整を行い、希望の場所に外出できるよう対応している。また1F,2F合同で年2回のバスハイクを実施し島外へ外出できる支援を行っている。	年間の外出行事も積極的に計画し、バスハイクで温泉旅館の芝居見物をしたり、イチゴ狩りを楽しむこともあった。ユニット単位や少人数での外出も行い、受診時にドライブを楽しんだり、個別ケアによる対応もしている。日常的にも近隣の散歩やアイランドパークへの優待入場をしてもらい、環境を活かした外出機会は多い。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各入居者様のレベルに応じ、毎月のお小遣いをお渡しし、本人より要望があれば購入の支援を行っている。金銭管理は領収書を出納帳に保管し記入している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙が困難な方は御家族へ状況をお伝えする為、日常生活状況を記入し郵送している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースには、バリアフリーで、居室のドアに名札を設置し、認知しやすいよう配慮している。また玄関等に季節の花、行事の写真、雛人形やこいのぼり等の季節を感じ取れる飾りを行い居心地の良い環境の提供に努めている。	リビングを中心に左右に廊下が伸び、居住スペースと共有スペースはガラス窓で区切られている。ダイニングテーブルをつなげて、入居者は一緒になって食事やレクを楽しんでいる。廊下には行事の様子が写真で飾られ、習字作品なども季節に合わせたものが展示される。職員目標、施設目標も目につくところにあり、励みにもなっている。キッチンも一体的で、窓外にも緑が生い茂り、ゆったりとして、家庭的な生活感のある時間が流れている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置やウッドデッキのある環境にて、個人又は仲の良い入居者様同士で過ごせる居場所の提供を行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや、写真、家具等を居室に設置し、本人が馴染みやすぐ安心できる空間を作り、居心地良く過ごせるよう支援しています。ご家族が宿泊させる際は和室を提供しています。	リビングと居室は離れているため、静かに過ごすことが出来る。各居室の戸には非常時の避難方法が識別できるプレートが貼られ防災に備えている。事業所によって準備される木製ベッドには収納もつき、スペースを有効に活用している。必要があれば介護ベッドも準備出来る。基本はカーペット敷だが、畳みに変えて布団で休んだり、防水フローリング仕様にすることもある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりを設置、各部屋にプレートを下げて入居者様が自立し安心、安楽な生活が出来るよう支援しています。		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を事務所や玄関に掲示し、毎月の合同会議時に全員で唱和し、意識を向上に努め実践できるようモチベーションを高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事に校区の自治連合会や地域の方の参加を呼び掛け交流を行っている。また地域の行事や馴染みの方の面会にてつながりが途切れないよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の中学生の福祉体験に協力し、実際に施設にて疑似体験してもらい、介護技術や認知症についての理解を深めてもらえるよう実施している。また地域の認知症についての講義に参加し、地域への呼びかけも行っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月毎に運営推進会議を行い現状の様子や報告を行い、御家族、地域の方々、市等の意見や思いを共有し、サービスに反映できるよう最善を尽くしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各担当の方々にケアプランサービスについての質問や連絡を密にし申請についての相談等を行い、連携を図り、サービスケアの向上に努め、協力体制の強化に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険度が高く緊急性がある場合は御家族の同意を取り、実施した場合は早目の取り外しを担当者会議で話し合い拘束の中止の検討を行っている。	

H26自己・外部評価表(GHみんなの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設外研修に参加し報告書を作成し回覧や合同会議時に報告を行いスタッフに周知情報を共有し意識を高め虐待防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、報告書を作成、回覧後に報告を行い、各職員への周知、共有化を行い意識、知識の向上に努め支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際や解約時には本人、御家族に解り易く丁寧に説明を行い、誤認、誤解が生じないように細心の注意を払い、本人、御家族の要望を汲み取りサービスとして提供出来る様努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートの実施や運営推進会議にて意見や要望を集約し、職員会議時に報告を行い反省や改善に向け、施設運営の向上に反映している。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回職員へアンケートを実施し、その後個人面談を行いお互いの考えや思い、要望を共有している。改善の必要性があれば、全体ミーティングにて議題として取り上げ運営の向上に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修参加の要望があればシフトを考慮している。また毎月の希望休や有給希望日を取り入れている。年2回の考課表を設け勤務状況を把握し昇給や賞与に値する配慮に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の面接時はその方のスキルや人柄に面談し採用としている。またスタッフの能力が活かせるよう、管理職が職員のサポートを行い能力を発揮できる環境づくりに努めている。		

H26自己・外部評価表(GHみんなの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対する人権を尊重する為に、施設内外の研修にて知識、意識を高め全体会議時に報告書を基に周知し、共有を行い入居者の人権を尊重する教育を行っている。		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの力量や状況を判断しながら研修会への参加を促している。研修の資料は全スタッフが観覧できるようファイルし情報の共有を図っている。会議時にも内部研修を兼ねた勉強会を実施し、職員のスキルアップに努めている。また代表と役職者は勉強会(社内塾)を月4回行い、スタッフを育てる為の教育を行い、外部研修後の取り組みを活かせる為に会議で取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホームの情報交換会や部会等に参加し情報交換に努めている。同業者の来訪時はお互いの悩みや思い等を話す機会を作りサービスの向上に努めている。加後は会議時に報告し、現場職員の参加も促している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や思いに耳を傾けゆつくりと時間を掛けて汲み取り、信頼関係を築いている。また安心して暮らす事が出来る様、話しやすい雰囲気や環境作りにも心掛けている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は必ずケアマネジャーとの面談を行い家族としっかり話をした上で困り事や不安、要望等に耳を傾け速やかに対応し信頼関係の構築に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は、本人、家族のおかれている状況を理解し、各担当者で支援が可能か見極め関係者、スタッフを交えてお互いに必要としている支援を可能な限り行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の生活歴や経験、情報を共有し常に尊敬の念を持ちながら一緒に生活しているという関係を築いている。また、お互いに生活する中で教えて頂くことや気遣って頂く事も多く信頼関係を深めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日常の様子を面会時や生活状況報告書を作成後郵送し、情報を共有し家族と共に支援を行っている。また施設行事には家族の参加を促し常に家族との交流の場が持てるよう努めている。		

H26自己・外部評価表(GHみんなの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、里帰りやお盆の墓参り、お正月の年始などで馴染みの方々との関係が途切れないように努めている		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が生活の中で保有能力を活かしながら洗濯物たたみや野菜の皮むき等、居室の掃除を行い、支え合う場面がみられている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所のサービスを受けられる際には当施設でのアセスメント、ケアプランの情報提供を行い、今後のサービスがスムーズに実施されるよう連携を図っている。また本人、家族が気軽に相談できる体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に担当者会議を実施、御家族、本人の希望意向を聴きアセスメント行っている。(在宅での可能性を含め)		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅や利用中の施設、病院に出向き担当職員やケアマネ、家族からの情報収集を行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの持つ保有能力(洗濯たたみ、野菜の皮剥き、お盆拭き)に目を向け格差や特徴に配慮しながら一日の過ごし方を支援している。また毎日の介護日誌の記録や訪問診療の主治医との連携で支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の担当者合同会議実施に加え、入居者様の状況の変化に応じモニタリングを実施。その内容に基づく介護内容はケアプランに反映させ本人、御家族への説明、同意を頂き交付している。		

H26自己・外部評価表(GHみんなの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを作り、ケアプラン実施表、生活状況、介護日誌、バイタル表を記入し、身体的、精神的変化を職員間で情報の共有を行い介護計画の見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の日々変化する状況に流動的に対応できるよう体制を整えている。職員間の報告、連絡、相談を密にし情報の共有化を行いサービスの多機能化に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設職員が地元消防団に所属し消防団や地域の方に協力して頂き避難訓練を行っている。校区の中学生の福祉体験学習の場として協力し交流する事でお互いの心身への良い影響となるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族がかかりつけ医と面談され納得して受診できるようサポートしている。医療面での変化がみられた際は早急にかかりつけ医に連絡を取り迅速な対応を行い本人家族が安心して適切な医療が受けられるよう支援している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入居者の変化を常に観察し医療的、心理的特変がみられる場合には施設看護師、かかりつけ医看護師に報告し適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際、医療機関と互いに情報を共有し本人にとって適切な治療が受けられるよう支援している。また早急に退院出来るよう医療関係者、家族への協力が得られるよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に「利用に際しての事前指定書」で看取り、治療についての意向、要望を確認し同意をとっている。また、家族会や運営推進会議でテーマとして取り上げ本人、家族、地域の方等で話し合い看取りケアについての知識を深め合っている。医師と家族との架け橋となる支援にも努めている。		

H26自己・外部評価表(GHみんなの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故の対応についてマニュアルを作成している。避難訓練時やAEDキットを使用し、緊急対策に全職員が実践できるよう努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時と災害対策を兼ね校区の消防団、職員の消防団で実施し全職員が的確に対応できるよう取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを損ねないように人格を尊重するような言葉掛けや対応を行い、環境作りに努めている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の選択や外出、買物等、個々の思いや要望を日々の生活の中から汲み取り、自分の意志で決定できるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調やペースを汲み取りそれに合わせた生活が出来るよう支援している。就床や起床、入浴、休息等はなるべく本人の希望に沿って支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隔月に訪問美容の依頼を行い、更衣については本人の好みを尊重し個性を大切に支援を行っている。外出、行事の際は日常と異なる服を準備し、化粧などの支援も行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の身体能力に応じて、調理補助を依頼し、一緒に準備や後片付けを行っている。また、季節行事では入居者様の好みも聞き入れ食事を提供している。		

H26自己・外部評価表(GHみんなの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスにて栄養士が栄養バランスを考えた献立に沿って調理を行いそれぞれ入居者の状況に合わせた形態や摂取量、水分量に配慮しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の口腔ケアの状況を把握し保有能力を活かせるよう支援を行っている。定期的な受診が必要な方は、訪問歯科や受診にお連れし清潔保持のケアを行っています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをすることで入居者様の排泄パターンや習慣を把握し、トイレで排泄して頂く支援を行っています。夜間時にも必要な方はポータブルトイレを設置する事で安心して排泄できるよう支援している。オムツ類の負担軽減を考慮し、カバーパンツやホルダーパンツを使用している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつ時に食物繊維や乳製品を多く取って頂き、体操や散歩を心掛けることで便秘の予防につながっている。排便困難である入居者は医師への相談をふまえ緩下剤を使用、調整し個々にあった支援を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はできるだけ入居者の希望にて、時間帯、順番等タイミングを合わせ支援している。入浴への拒が強い方については、様子をみながらスタッフが交代し、配慮しながら不安なく入浴して頂けるよう支援している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の状況を各自把握することで、午睡やレク、散歩等に誘い、入居者の体調管理に配慮し安心して休息できる環境づくりに努めている。安眠して頂くよう、照明や室温の調整もを行っています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の詳細が職員に分かりやすいように、各個人の介護記録表や服薬表に処方説明書を貼り付け確認できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の季節行事、誕生日会、バスハイクの企画にて、職員、入居者の方々との交流を深め楽しみを共感している。その他に生活習慣を維持して頂けるよう洗濯物たたみや野菜の皮剥き、食器洗い等で出来る事での役割をもてるよう支援している		

H26自己・外部評価表(GHみんなの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があれば、日程を決め、シフトの調整を行い、希望の場所に外出できるよう対応している。また年2回のバスハイクを実施し島外へ外出できる支援を行っている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各入居者様のレベルに応じ、毎月のお小遣いをお渡しし、本人より要望があれば購入の支援を行っている。金銭管理は領収書を出納帳に保管し記入している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話して頂いたり、手紙、切手の購入に同行し、本人から手紙が出せるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースには、バリアフリーであり、居室のドアに名札を設置し、認知しやすいよう配慮している。またリビングやテーブルに季節の花、行事の写真、雛人形やこいのぼり等の季節を感じ取れる飾りを行い居心地の良い環境の提供に努めている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングとエレベーター前スペースにソファや長椅子を設置設置し、個人又は仲の良い入居者様同士で過ごせる居場所の提供を行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや、写真、家具等を居室に設置し、本人が馴染みやすく安心できる空間を作り、居心地良く過ごせるよう支援しています。家族が宿泊させる際は和室を提供しています。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりを設置、各部屋へにプレートを下げる入居者様が自立し安心、安楽な生活が出来るよう支援しています。		